

平成22年度

# 江別市 特別支援教育便り

第4号「教員・保護者向け」

第4号：平成22年9月

江別市教育委員会

学校教育支援室

特別支援教育コーディネーター

三上雄一

TEL 381-1409

今号は9月13日に行った第1回特別支援教育保護者研修会の様子をお届けします。研修会は102名の参加を得て大変好評でした。研修会終了後も40名近い参加者が講師の先生を囲んで質問していました。紙面の都合で要約しましたが、お読みになり参考にさせていただきたいと思います。

## 「学齢期における指導のポイント」家庭でできる指導

北海道南幌養護学校教諭 中嶋雅子 氏

### 感覚統合ができていない子どもが多い

学校訪問して子どもたちの姿勢の悪さが目に付く。感覚統合は、感覚情報の適切な交通整理で、このことで適応行動を作り出す。その、自覚しにくい3つの感覚に「触覚：外界との関係を調整する感覚」、「固有覚：力加減、手足の動きや位置の感覚」、「平衡感覚：バランス感覚」がある。触られることが嫌い、歯磨きが嫌いなどの、触覚防衛反応が見られる子には、背中に指で描いた形をあてさせる、ガムテープなどを貼った場所を当てさせる、袋にある物の形を探り当てさせることで、触覚防衛が弱まるのではないかとされている。ブランコやトランポリンは、覚醒レベルを上げて集中力を高めたり、平衡感覚に刺激を与えて言語中枢に働きかける。例えば30分以上激しくブランコをすることで覚醒レベルを高めることができる。すぐに戻ってしまうので、毎日続けることで覚醒レベルを高め、子どもの集中力を高められる。アスレチックや鉄棒ブタの丸焼き、ツイスターゲームなどはボディイメージを育て、力加減がわかり衝動性にブレーキが掛けられるようになる。器用さを育てるには、雑巾がけやジャングリズム、手押し車遊びなどが有効である。器用さを育てるためには、手先のことばかりでなく体の大きなところから訓練しないと手先までいかない。

**LD（学習障がい）**は、知的発達に遅れはないが、読む・書く・計算の学習能力のいずれかが低い。場合によっては、遅れが重なっていることもある。字が二重に、表裏反対に、渦のように見える子もいるが、生まれたときからそのように見えるので、本人は不思議に思わない。有名人に俳優のトム・クルーズ氏もいるが、「苦手なことに日々チャレンジしている子」と言っている。

**ADHD（注意欠陥/多動性障がい）**は、気が散りやすい（不注意）、じっとしてられない（多動性）、思いつくとすぐ行動する（衝動性）「元気印、エネルギー満載の子」。坂本竜馬もADHDと言われるが、坂本竜馬がいなかったら日本の夜明けが遅くなっただろう。

**PDD（広汎性発達障がい）**は、マイクロソフト社のビル・ゲイツ氏も広汎性発達障がいと言われる。社会的関係を作る能力、コミュニケーション能力、想像力が乏しい。知的な能力が正常範囲で、言語発達の遅れがある場合を、高機能自閉症と言ひ、言語発達に遅れが無い場合をアスペルガー症候群と言う。大学教授にも多い「自分流をつらぬく、こだわりの子」。

**視覚機能・視覚認知**は見え方。無作為で整列していない数字カードは認識できないが、整列していると認識でき並べ替えることができる。漢字「雨」の点が縦か横か認識できない子もいる。色々な刺激の中から特定の刺激に注意を向け、認知する能力、例えば重なっている図形は認識できない子もいる。そのような子は、文章の中で、指示された単語を見つけられない。余計な文字を入れたり文字を省略したりして読む。表やグラフが読めない。大きさの違いが分からない子は、よく似た文字が弁別できなかつたり、明朝とゴシックで同じ文字として読み取れなかつたりする。感覚統合を促進するビジョントレーニング（眼球運動、視空間認知、ボディイメージ）には、ビー玉、おはじき、おりがみ、ぬりえ、追いかっこ、縄跳びなどがあり、昔の子は遊びの中でやっていたこと。昔は遊びの中で育てられていたと言う人もいる。

**学習やしつけ等の全ての土台になるものが自己肯定感（セルフエスティーム）**自分の気持ちをわかってもらえる、認めてもらえる。自分のいいところも悪いところも、全部受け入れて愛してくれる。お母さん方も自己肯定感を持つことが大事。母親はすごい仕事をしている。

**子育てに5つのスキル** スキル1 見つめる～優しい表情で スキル2 ほほ笑む～口角を上げて、優しい目で スキル3 話しかける～受容的・共感に「そうだね、わかるよ」希望や見通しが持てるように「大丈夫だよ、あと3問できたら終わりだよ」 スキル4 ほめる～「笑顔で、明るい声で、顔を見て」「事実をほめる」「捜してでもほめる」「すかさずほめる」「(苦手なことは) やろうとしたらほめる」 スキル5 さわる～手をつなぐ、頭をなでる、肩に手を置く。

**もう一つ大切なこと**は成功体験を重ねて自尊感情・自己肯定感を高めること。しかし、親が子どもに勉強を教えると、つい感情的になってしまう。お母さんと勉強すると楽しいと思えることが大事で、カードを使ってゲームの要素を取り入れながら楽しく学習を進めたり、漢字、四字熟語、慣用句カードや都道府県、地図記号、歴史人物などの学習を積んだりする事で、周囲の子どもたちから「すごい」と認められ自己肯定感も高まる。カードゲーム（トランプ、UNO）、ボードゲーム、オセロ・将棋、カルタなどで、コミュニケーション能力を育てる。他の子と同じルールで遊べるのが大事で、そのためにはルールに従うこと、負けを認める気持ちを育成する。

**負けを認めることは生きていく中で大切なこと**負けることを認められず大声で泣き喚く子がいたが、ある先生は「勝つこともあれば、負けることもある。」と言いつづけ、子どもがそう思えるまでに5年かかったが、負けを認める気持ちを育てることができた。このような魔法の言葉を持っていることは大事な事。ルールに従うことは社会で生きていくときに必要な事。やるべきことはやらなければいけないと育てる。

**個別の教育支援計画は**障がいのある子どもを生涯にわたって支援することを目指している。教育支援計画を作りたいと、先生方も保護者に言い出せないでいる。特別支援を受けた子は、必ず支援学級や養護学校に行くわけではない。特別支援教育は普通学級の中でも支援しているところと始まった。指導が小中高一貫してできるようになることを目指している。先生方や保護者で特別支援教育に関わって困っていることがあれば、相談にいけるので、学校を通して呼んでほしい。